議長初選任 議会の品格保ち、県都の発展へ

市議会6月定例会でわたしは、初の議長に選任されました。中核市にふさわしい議会の品格を保ち、さらには県都の発展のため、より活発で成熟した議論を創出していきます。

議会では現在、さまざまな市政課題を抱えています。硬直化が進む財政問題に対しては、聖域なくすべての事業を厳しくチェックし、市民の皆さまの税金がムリ、ムダなく適正に使われているか審議していきます。

子どもセンター建設予定地

県立病院跡地から変更 県と市、早急な関係回復望む

県立奈良病院跡地（奈良市平松1丁目）に奈良市が建設・整備を予定していた「子どもセンター」ですが、建設予定地を他に移す考えを仲川元庸市長が明らかにしました。県との協議が進まないことを理由にしています。県総合医療センター跡地では、県と市と地元が一体となってまちづくりを進めていくことが確認されていますが、県と市の関係性の悪化が懸念されています。

県と奈良市は平成27年1月に「奈良県と奈良市とのまちづくりに関する包括協定」を締結し、共に奈良市内の4つのエリアのまちづくりを進めています。このうち平松周辺のエリアでは、県立奈良病院跡地の活用などに取り組むことが確認されています。県、市、地域のさまざまな団体が「まちづくり協議会」を立ち上げ、奈良市は「子どもセンター」の建設を予定していました。

しかし県と市の考えや足並みがそろわず、荒井正吾知事は10月25日の会見で子どもセンター開設後の民間委託を批判、またセンターを先行して「一部まち開き」をする市の考えと同調しないことを表明しました。これを受けて仲川市長は、建設予定地をほかの場所に移す判断をしました。

耐震性のない市役所本庁の修繕か、建て替えかをめぐって両者の考えが対立した県と市。県との早急な関係の回復が望まれます。市議会として対話の場の創出や、遅れが懸念されるまちづくりのスピードアップを求めていきます。

子どもセンターの建設を予定していたが県との協議が進まず、市長がほかの場所へ移す考えを明らかにした県立奈良病院跡地

クリーンセンター老朽化移転問題

市長が令和3年までに道筋 細部にわたり審議と精査を

奈良市政の最大の懸案事項の一つとなっている、老朽化したごみ焼却場（クリーンセンター）の移転問題は現在、奈良市の近隣市町との広域化を視野に、検討を重ねています。市単独でのごみ処理経費が約100億円と試算されるのに対し、広域化では73億2000万円に抑えられ、約27億円（26・8％）のコスト削減につながると考えられています。これら移転について仲川元庸市長は、令和3年夏までに道筋をつけると話されています。

クリーンセンターの老朽化をめぐって仲川市長は、市東部への移転建築を模索してきましたが、地元の同意を得られないことなどからこの計画を断念。近隣市町との広域化を目指しています。

近隣市町との広域化の勉強会では、生駒市、大和郡山市、平群町の2市1町の枠組みに奈良市、斑鳩町の1市1町が参加し、新たなごみ焼却場の建設コストや運営コスト、各市町の現状などを話し合っています。

市町村の枠組みを超えた広域化は、施設集約によるスケールメリットや全体事業費の大幅な削減、参加市町村の費用負担の軽減が図れるほか、県からも『奈良モデル』として補助金の財政支援を受けることができるメリットがあります。

新たな候補地は奈良市内になる公算が高く、市議会としては、地元の同意や周辺の環境への配慮やまちづくりなど、細部にわたって審議と精査を行ってまいります。

これからも地域と共に

平城宮跡歴史公園整備（南門・築地回廊を中心に）進捗状況と周辺整備について国交省・都市局係官からレクチャーを受けました。

市民の皆さまが暮らしやすい町へ

さまざまな活動に取り組んでいます。

近畿市議会議長会が京都ホテルオークラにて開催され、泉南市、大津市より「児童虐待から子供を守る対策について」、「障害福祉サービス事業所等施設整備の拡充について」それぞれ議案の説明があり可決されました。

奈良市児童相談所開設に向け金沢教育プラザ内・児童相談所で今寺相談所長よりお話しを伺いました。

活動の最新情報は
facebookでも発信しています。